「リーダーシップについての考え方」が開催されました

実施報告

日時: 2010年6月7日(月)　12:15 ～ 12:45

場所: 東海大学湘南キャンパス
8号館3階プロジェクト会議室

司会: 尾崎由佳(チャレンジセンター専任講師)

内容: 1. リーダーシップについての考え方
～成し遂げ力Ⅱの授業から～
堀本麻由子(チャレンジセンター特任講師)
尾崎由佳(チャレンジセンター専任講師)
2. 質疑応答

リーダーシップについての考え方 ～成し遂げ力Ⅱの授業から～

チャレンジセンターの「新しいリーダーシップのあり方」について考えることを目的として、発表および議論を行った。まず、チャレンジセンター科目「成し遂げ力Ⅱ」において教えているリーダーシップの概念や理論を紹介し、現代社会で求められる新しいリーダーシップである「チームマネジメント型リーダーシップ」を考える上で重要なポイントを指摘した。続いて、リーダーシップに含まれる要素や、「ビジョン型」「民主主義型」「親和型」「コーチ型」「強圧型」「先導型」などのスタイル分類について説明し、それぞれのスタイルがチームにもたらす効果について考察した。最後に、参加者各自が自らのリーダーシップ・スタイルについて自己評価するワークを体験した。

堀本麻由子
(チャレンジセンター特任講師)

尾崎由佳
(チャレンジセンター専任講師)

質疑応答

Q. リーダーシップ・スタイルは自己評価するよりも他者評価の方が正確なのではないか。
A. 確かに、自己評価は不正確になりがちである。自らが評価した内容と、他者に評価してもらった内容が食い違うことはしばしばあり、概して他者評価の方がより実態をよく表していると言われる。ただし、日頃の自分のリーダーシップのありかたを内省するきっかけとして自己評価を試みることは意味のあることだと考える。
Q. 年功序列制が崩れた現代社会では、リーダーもひとつの役割として位置づけられ、交代可能なものになっているのではないか。
A. リーダーが交代可能という指摘はそのとおりだと思う。また、リーダーに限らず、全てのチームメンバーがリーダーシップを発揮することが重要だと教えている。
Q. チームマネジメント型リーダーシップは、評価主義・成果主義とは異なり、プロセスを重視しているのか。
A. もちろん成果も大事ではあるが、その成果をもたらすためのプロセスを重視していると言える。成果を目指すプロセスにおいて、どのようにリーダーシップを発揮できるかが鍵だと考えている。